

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300409		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホームサンシャインことひら		
所在地	群馬県桐生市琴平町4-6		
自己評価作成日	令和6年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.sanikukai.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和6年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・可能な限り散歩を実施し、季節の移り変わりを感じ、下肢筋力の低下を防ぎ、転倒予防を心掛けている。
- ・利用者個々の持っている能力、出来ることを見極め、掃除、洗濯物たたみ、食事の準備、食器拭きを行って頂き、役割を持ち、生きがいになるようなケアを実践している。
- ・医療面において、個々の主治医がいるので、馴染みのある医師に往診をして頂いたり、定期受診に行き、馴染みの関係が継続できる。体調不良の時は受診をおこなっている。
- ・毎月レク係りが、外出や季節の行事を企画して、楽しみを増やしている。
- ・利用者1人1人の担当者が、毎月ことひら便りを作成し、家族に配布し、施設内での様子を伝えている。

季節ごとの花見や外気浴を兼ねて毎日散歩することで、閉塞感のない暮らしを提供し、利用者の気分転換のみならず、近隣の方との交流の機会を作っている。法人の地域密着型サービス事業所の研修会や行事を行い、職員育成や利用者のたのしみの機会が図られている。災害対策では、毎年、水害訓練を実施し、運営推進会議でも話し合い、市の出前講座を活用して意見交換を図り、防災対策の意識を高めている。あわせて、職員の提案で災害は突然発生するので、消防訓練の際はスケジュールを決めずに、当日のスタッフが判断して避難方法を考える訓練も行っている。食事は、週2回手作り昼食という形で、利用者の食べたいものを聞いて、一緒に調理をして、食事が日常生活の中で楽しみの1つに繋がるように工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、事務所に掲示しており、利用者様地域、家族との関わりを大切に実践に繋げている。事業所内で問題が発生したときは理念に基づき、職員で話し合い、対応を考えている。	利用者の思いに寄り添いながら、穏やかに暮らすことを理念とし、サービスを提供する上での拠り所を4つ掲げている。対応で落ち込んでしまう時などは、広い心と優しい気持ちで接するという原点に立ち戻って、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で地域の方と挨拶を交わし、馴染みの関係を築いている。近所の方から庭の果物や鉢植えを頂いている。毎年、地域の公民館の文化展に作品を展示させて頂き、交流を図っている。	事業所の周りを毎日散歩することで、地域の方とは顔なじみになっている。近くのコンビニエンスストアに、利用者と買物に行くこともある。公民館の文化展にはイチヨウの木の貼り絵を出品して、見学に行くなど、地域との関わりをもつ機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学を受け入れ、利用者様の様子を見て頂き、認知症の人の理解や支援の方法を職員が説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回開催し、市役所、包括、町会長、民生委員、家族に参加して頂き、書面にてサービスの報告を行い、意見を頂いている。会議の報告書を作成し、玄関に掲示している。	参加者からは忌憚のない意見や提案があり、水害訓練について話し合ったときには、家族から災害時に手伝えるという提案があった。また、会議を通じて事業所内だけでなく避難場所が共通認識され、今後に活かすことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、利用者様の様子や、施設の現状を報告し、必要な助言、指導など、市との連携を取っている。研修時に市の出前講座を活用させて頂いている。	法人内の地域密着型サービス事業所が合同で行っている職員研修に、災害時の対応について市の出前講座を活用している。講師から「災害ゲーム」等が提示され、災害時の対応について意見を出し合い学ぶ機会となった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の研修を受けている。年2回身体拘束・虐待の勉強会を行っている。運営推進会議で、身体拘束・虐待防止委員会を開き、報告を行い、意見を頂いている。	法人で行う研修会で、身体拘束をしないケアを議題にして、職員が参加し職員会議でその内容を報告している。今年度から虐待防止のための対策を検討する委員会の開催が必要になったことが説明され、運営推進会議とあわせて行うことになった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時やトイレ時に不審なアザや、傷などがいないか確認している。ミーティング時勉強会を行い職員の自覚を促している。職員研修で虐待について学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度や後見人制度など学び、必要とする利用者様がいる場合には、説明や利用検討の段取りを組むなど、支援している。研修に参加出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時に家族の不安や、質問等を聞き、契約時に重要事項説明書、運営規定の説明を行い、疑問点を確認し、納得して頂いてから契約をおこなっている。救急搬送時や心肺蘇生の対応について定期的に確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、利用者様の現状を報告し、家族の意見や要望を聞いている。遠方で会えない家族には電話などで利用者様の様子を伝え、意見や要望を聞いている。外部評価結果は運営推進会議で報告し意見を頂き、家族にも配り、意見を頂いている。	家族の意見を聴取するために関係づくりを考え、利用者の様子を面会時等での報告の他、担当職員がその利用者だけの写真や様子を記載した便りを手書きで作り、毎月発行している。また、運営推進会議の報告書も家族に配布して、関係を築くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員共有の申し送りノートを活用して、意見、提案などを行っている。ミーティングで問題になる事など、提案する機会がある。青葉会という職員の組合があり、各事業所から毎年役員を選出し、職員からの意見、要望を聞き、青葉会代表と法人代表と話し合う会議がある。	法人として職員の意見を聴取する機会づくりと体制づくりが行われ、各事業所内での会議の他、法人内の地域密着型サービス事業所の運営会議、労働組合を通じて、働きやすい環境づくりにむけた話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内でのQC大会や、感動大賞などがあり、現場での実践の発表をする機会があり、職員の意欲向上に繋げている。毎年ストレスチェックを実施し、メンタルヘルスの研修を行い、問題を抱えた職員が相談できる相談員がいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各施設に研修委員を置き、毎月職員研修を行っている。持ち回りで各施設が担当し、研修の資料作りや講師などを行っている。研修に参加した職員がミーティング時に研修内容を報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、法人外の施設の受け入れは出来ていないが、毎年、法人外施設によるGH大会の事例発表に参加している。認知症カフェで法人内の他の施設を訪問し、職員と話す機会があり、交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入所時に、本人と面接を行い、困っている事、不安な事、要望を聞いている。言葉で上手く表現出来ない利用者様に対しては、入所後御本人の行動や、言動から意味を探る事で信頼関係を深められる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学を御本人、御家族にして頂き、要望や心配事を聞き、御家族が安心して話せる様な雰囲気づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や契約時に本人や御家族の要望を聞いている。出来る事、出来ない事、どのような支援を望んでいるかを伺い、ケアの内容を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、本人の出来る能力を活用し、困っている所を援助している。、食事の準備、片付け、掃除など一緒に行い、暮らしを共にする仲間の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の面会時や、電話等で利用者様の様子を伝え、意見交換や要望を伺っている。利用者が不安な時、家族に会いたい時は連絡し、共に支え合う関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族、親戚、知人など、本人がこれまで大切にしてきた人とゆっくり会話が出来る様、交流室で面会して頂いている。	面会者が多い時には、ゆっくり面会できるように交流室を提供している。直接的な交流ではないが、散歩時に、自宅がホームの近くにあった利用者は昔はこの場所に〇〇があったとか、縁日があった等回想され、思いを職員や他利用者と共有する機会としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出、毎日の生活の中で、一緒に楽しむ機会を設けている。集団の苦手な利用者様に対しては個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になっても御家族が気軽に立ち寄れるような声掛けを行っている。来設された時は本人の様子を伺い相談にものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人、御家族に暮らし方の希望を聞き、本人のペースで生活出来る様支援している。利用者様の意見を聞き、ケアの方向を決め援助している。	発語はあるが、言葉が出てこない利用者の対応は、表情やしぐさ等を観察して、利用者の思いを推測している。上手くいかない場合は、職員間で話し合っ理解に努め、その思いを職員で共有して支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全体状況のアセスメントを読み、生活歴を把握する。利用者様、御家族に話を聞き、話の中から馴染みの暮らし方を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様に話を聞き、ケア記録、個人日誌、スタッフ間の申し送りの中から現状の把握に努めている。その時の利用者様の心身の状態で、臨機応変に対応できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様個々に担当の職員がいて、課題などを挙げ、ミーティング時にカンファレンスを行っている。家族の意見やケアマネ、職員など、それぞれの意見やアイデアを取り入れ介護計画を作成し、担当職員がモニタリングを行っている。	介護計画の長期目標の期間は1年間で、短期目標は6ヶ月間で作成し、モニタリングはケアマネジャーと利用者の担当職員が3ヶ月毎に行っている。介護計画のファイル、個人日誌、ケア表など記録は手書きで作成して、ケアプランの見直しの参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに即した支援を行い、ケア表、個人記録に毎日記録を行い、申し送りや申し送りノートを活用し、職員間で情報の共有をしている。日々の生活やモニタリングに活かせる様、ケアプランを個人記録と一緒に保管してある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護、医療機関への受診、往診などその時の本人の状態変化によって、ニーズに合ったサービスを選択している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	育成会の資源回収に参加している。道路側の除草作業を行い、地域の美化に努めている。地域の文化展に参加し、地域の公園で開催される桐生花火大会に参加し、楽しむことが出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医の受け入れがあり、受診、往診の支援を行っている。また利用者の体調の変化により、電話やFAXで状態報告を行い、指示を仰ぎ、適切な医療を受けられる様支援している。	ほとんどの利用者は法人の診療所をかかりつけ医として、月2回の訪問診療を受けている。希望により以前からのかかりつけ医の訪問診療を受けたり、家族が遠方のため、職員が受診に同行したり、状況にあわせた対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約しており、週1回訪問時に利用者様全員の健康チェックをしてもらっている。利用者様との関わりの中で、体調変化や通院状況を伝え、情報を共有し、夜間急変時も協力してもらう体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室との連携を図り、病院と家族との連携が取れている。入院先に看護サマリーや診療情報を送り、電話での情報交換も行っており、早期に退院出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、訪問看護、他医療機関との連携を取り出来るだけ本人、家族の希望に添った方針をたてて行くよう支援している。	入居時に、終末期の希望について家族に聞いている。法人の診療所があり、重度化した場合は入院希望が多く、心肺停止となった場合の対応確認書について、市医師会の指導に基づいて家族に確認をもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会を年に1回行い、職員は研修を受けている。講習会の資料を基にミーティング等で勉強会を行っている。救急事態・事故発生時の対応マニュアルが事務所に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、春と秋に防火訓練を行っている。春の防火訓練には、消防署の立会いのもと、夜間訓練を行った。夏から秋の台風シーズンには水害時の訓練を行い、市に報告している。地域の包括支援センターでネットワーク会議に参加し、意見を出しあっている。	防火訓練は4月・10月に行った。その他、毎年水害訓練を実施している。運営推進会議の議題として話し合ったり、地域密着型サービス事業所の職員研修で市の出前講座を活用したりして、災害時の対応について学んでいる。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は苗字で呼ぶ対応をしている。時間でトイレ誘導を行っている利用者様は、他の人に聞かれない様、配慮している。人生の先輩であることを念頭に起き、プライドを傷つけないような声掛けを行っている。	一人ひとりの尊厳を損ねることのないように、言葉かけに注意している。例えば、管理職の仕事をしてきた方には、指示と受け取られないよう声かけをしている。その他、トイレ誘導の場合には、トイレという言葉は使わずに、一緒に行ってもらっていいですかなど配慮した声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の要望、希望を傾聴し自己決定が出来る様支援している。レクリエーション、お手伝い、入浴、外出などその都度声かけ、自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるが、利用者様の今まで通りの生活を大切にし、その日の体調や希望に添って一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、利用者様にカット、パーマ、染などの希望を聞いている。化粧品の購入等もしている。入浴の準備の時は、本人の着たい服を選んで頂いている。着替えや入浴準備が出来ない方は職員が声掛けを行い好きな服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の手作り昼食では利用者様の食べたい物を聞き、メニューに取り入れている。野菜切り、盛り付け、後片付けを一緒に行っている。食事の時は音楽をかけ、ゆったりとした雰囲気を心掛けている。	3食とも法人内の会社で調理し、配食された食事を提供している。週2回の昼食と誕生日会や行事食は、利用者の希望を取り入れ、事業所で作っている。その際には、利用者に野菜を切ったり、食器洗いや食器拭きをしたりなど、関われる機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の口腔内の状態、嚥下能力、希望に沿って食事の形態を変えている。禁食のある利用者様に対し、別のもので交換し、栄養不足にならない様にしている。水分摂取の少ない利用者様は声掛けを行い、脱水にならない様支援している。常時麦茶を用意してあるので適宜提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じ口腔ケアを行って、職員が仕上げ磨きをしている。月1回口腔指導があり、問題のある利用者様は口腔指導時診でもい、受診につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のケア表に排泄の有無を記入、職員は個々の排泄パターンを把握している。時間でトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るようにしている。日中は利用者様全員がトイレでの排泄が出来るように支援している。	自分でトイレに行ける方が多いが、尿意・便意があいまいな方には、時間を見計らってさりげなくトイレ誘導し、日中は全員がトイレで排泄できるように支援している。夜間は安眠できるよう大きめなパット等を使っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的の下剤の内服をしている利用者様もいるが、毎日の散歩や体操で身体を動かし、数日排便のない利用者様には、腹部マッサージの実施。繊維質の多い食材や乳製品等で自然排便が出来る様に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせた入浴の支援をしている。一人一人が入浴し、ゆったりとした時間になっている。無理な声掛けはせず、入りたくない時は時間や日をずらしている。	週2回、午後の時間帯に、時間制限はせず、ゆっくり入浴していただいている。介護度も高く高齢な方も、手すりを利用して介助することで浴槽に入れるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤者が寝る前に声掛けを行い、安心して頂けるように心掛けています。就寝時の証明は本人の好みの明るさにして頂き、室温も本人好みに調整している。日中自由に居室に行き、休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は内服薬の用法を、お薬手帳や薬情を参考にし、個々の内服時間に合わせケアをしている。状況により追加された内服薬に関しては、経過報告を行い、症状に合った服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回の訪問販売で好きなお菓子を選んで購入して頂いている。毎日の生活の中で、本人のやりたいお手伝いをして頂き、レクリエーションで貼り絵をしたり、歌を歌ったり好きなことに参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を心掛け、実施している。個別の買い物支援、受診等の介助を行っている。季節の花の見学に出掛け、季節を感じ、気分転換が出来る様支援している。	事業所周辺の散歩を、毎日心掛けています。気分転換や外気浴を兼ねて、季節ごとの花見などに多く出掛けている。その他、法人の他事業所の催し物に出かけて交流したり、じゃがいもの植え付けや芋掘りも行ったりしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は家族了解のもと、自分でお小遣いをもち、使用していた方もいたが、お金の管理が出来なくなり、現在はほぼ使用していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所前に本人の携帯電話を所持している利用者様は入所後も継続して使用して頂いている。充電が切れてしまうことがあるので、施設で預り充電している。本人が家族に連絡したい時は、施設の電話をいつでも使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所とフロアが続いており、食事作りやおやつ作りの匂いがフロアまで届き、家庭にいる時と同じ雰囲気を感じることが出来る。利用者様の様子が台所から見えるようになっているので安全確認ができる。利用者様と共同で作成した季節の貼り絵や作品を飾っている。	キッチンとホールが続いてあるので、調理中の様子が感じられ、利用者との会話もしやすい空間になっている。また、季節ごとに作成した貼り絵を飾り、四季の雰囲気を感じてもらえるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席は、気の合う利用者様同士になれる様配慮している。食事の時は決まった席に座っているが、その他は個々に好きなところで過ごしている。他の利用者様とコミュニケーションが上手く取れない利用者様は、孤立しない様職員と一緒に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具、TV等持ち込みは自由。本人が自宅で使用していたものを使用してもらい、居心地の良い空間で過ごせるよう工夫している。居室入り口には本人の氏名と、季節の飾りつけがあり、安心出来る様配慮している。	居室の室温管理は職員が行い、エアコンの風が直接当たらないように配慮している。居室入り口には氏名と季節の飾りつけがあり、見当識障害が見られる利用者の入り口には氏名を大きく表示し、わかりやすいようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関と玄関前のエントランスには椅子が用意しており、靴の履き替えが安全に出来る様にしている。玄関浴室、廊下、トイレに手すりがあり、立ち上がりや歩くことに不安を感じる方が、自分で移動できるように配慮されている。		